

## 市民社会創造ファンド 連続セミナー第1回 『持続性を促す』助成について考える

市民社会創造ファンドの20周年記念事業である連続セミナー第1回が6月29日に開催され、Panasonic NPO/NGO サポートファンドを事例に『持続性を促す』助成について考えた。本セミナーは第1部が助成プログラムの概要と事例報告、第2部がそれを受けてのパネルディスカッションである。

### <プログラム概要>

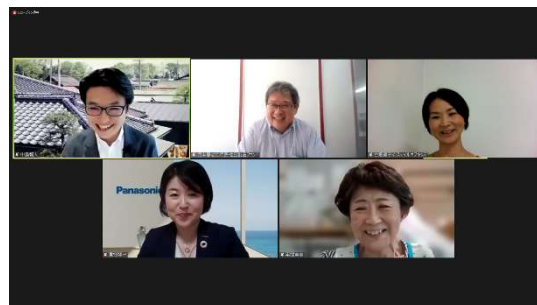
日時：2022年6月29日(水) 13時～15時

方法：オンライン (Zoom ウェビナー)

内容：①助成プログラムの概要と事例報告

②パネルディスカッション

③総括コメント



### <登壇者>※報告順

東郷 琴子さん (パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社 企業市民活動推進部 ソーシャルアクション推進課 課長)

平間 恵美さん (特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事)

谷畑 育子さん (認定特定非営利活動法人スマイルオブキッズ 事務局長)

坂本 憲治 (特定非営利活動法人市民社会創造ファンド シニア・プログラムオフィサー)

### <パネルディスカッション コーディネーター>

中島 智人 (特定非営利活動法人市民社会創造ファンド 理事)

### <総括コメント>

森本 真也子さん (特定非営利活動法人子どもと文化全国フォーラム 代表理事/特定非営利活動法人子ども文化地域コーディネーター協会 専務理事/Panasonic NPO サポート ファンド 子ども分野元選考委員長)

## Panasonic NPO/NGO サポートファンドの概要と助成事例に関する報告

第1部では、最初に東郷琴子さん(パナソニック オペレーションエクセレンス株式会社)より、プログラムの概要について説明があった。このプログラムは、事業助成とは違い、団体の組織基盤を強化することを目的とした助成であり、また組織診断や第三者であるコンサルタントが伴走することも仕組みに取り入れていることも特徴としており、組織が強化されることによって団体が持続的に活動できるようになることを期待している、と報告した。

次に助成を受けた2つの団体からそれぞれ報告した。最初に平間恵美さん(特定非営利活動法人はちのへ未来ネット)から、助成によって広報やネットワークに力を入れることができ、会員が増加しただけではなく、地域社会とのつながりが強くなったと報告があった。次に谷畑育子さん(認定特定

---

---

非営利活動法人スマイルオブキッズ)からは組織内部の改善を図ったことで、団体内外に対して信頼性や効率性の向上が得られたとの報告があった。

最後に坂本憲治(市民社会創造ファンド)より企画開発やプログラム運営で大切にしていることや、具体的な業務について説明した。またプログラムは毎年の更新だけではなく5年毎に評価・見直しを行いながら、社会やNPOのニーズや変化を捉えながら実施してきたことを報告した。

### パネルディスカッション：持続性を促す助成に必要なこと

第2部では、4人の報告者とともに中島智人(市民社会創造ファンド)のコーディネートでパネルディスカッションが行われた。

#### 企業市民としてどのように社会と対話してきたのか。また団体もプログラムから感じ取るものがあったのか。

東郷さん：パナソニックグループには、経営基本方針に「企業は社会の公器である」という、企業は社会のため存在し、社会によって支えられ、社会とともに歩むもの、という考えがあり、地域社会と対話をしながら事業活動を進めている。そして事業活動とともに一企業市民として社会のお役に立つ「企業市民活動」においても、社会課題の解決や新たな社会価値の創造を目指し取り組んでいる。

谷畑さん：自団体の土壌が強くなることで、隣の団体や地域が強くなることをパナソニックのワークショップで聞いた。団体が強くなるための栄養を助成によっていただき、実際に地域の拡がりが見られている。またパナソニックや市民社会創造ファンドも対話を通して理解してくださる姿勢がとても有難かった。

平間さん：企業も団体の活動を通して地域のことを理解してくれていると感じた。一緒に物事を共有しながら社会の一員として共に成長できると嬉しい。

#### 企業とNPOをつなぐ役割とは

東郷さん：市民社会創造ファンドと一緒にプログラムの企画・運営を行ったことでNPOの理解が深まった。そして団体から社会課題についての知見を共有いただいたり、解決に取り組む姿勢を学ぶなど多くの気づきを得ることができた。

坂本：私自身もたくさんの方のことを団体から教えてもらっている。団体も企業も含めた「社会」という視点から捉え直すことが重要だと思う。

#### 組織基盤強化をしたことによる組織内外の影響について

谷畑さん：コロナ禍で寄付が減ると思ったが、組織基盤強化の取組みで情報発信を積極的にしていたので、応援コメントとともに今まで以上の寄付を頂くことができた。

平間さん：組織基盤強化で取り組んでいた情報発信(LINEの配信やウェブ整備)が、コロナ禍でその重要性に行政が気づき、そのまま予算がついて行政が担ってくれるようになった。一方、事務局長が変わったことで、団体として大変な時期もあった。でも残ったメンバーで何ができるのかを考え、

---

---

取り組みを通じて新たに支えてくれる人も増えていった。「子どもたちのために何ができるのか」という強い思いを共有し合えたのも原動力であった。

谷畑さん：基盤強化をしたことで仲間が離れたことも0ではない。でも互いに腹を割って話し合いを続ければ一つの方向性に進める、という自信があったことで頑張れた。

### 助成後の団体フォローについて

東郷さん：フォローアップのプログラムとして、助成終了後の団体にプロボノプログラム（社員のビジネススキルを活かしたNPO/NGOの事業展開力の強化を支援）を展開している。また助成先の皆さんには組織基盤強化ワークショップやフォーラム等に登壇いただき、組織基盤強化の重要性や有効性を共に伝える仲間としてのつながりも生まれ、心強く大切にしている。

坂本：パナソニックで組織基盤強化助成を受けた団体を、市民社会創造ファンドの別プログラムでプロジェクト助成として応援することもある。このような形で継続してつながりが生まれている団体もある。

### 中間支援に対する考えや期待について

平間さん：現場と行政、団体同士、事業と事業の間に柔らかいクッションのように存在しているのが中間支援だと思う。様々な情報や助言を優しく、時には厳しく伝えてくれることで団体自身も成長していく。

谷畑さん：現場よりも課題に強く向き合ってくれているのではないかと感じる。課題に踏み込む力が大切だと感じる。

### 最後に

中島：人も組織も育つ市民活動助成の「組織」にはNPOだけではなく企業も含まれる。そして「人」はNPOや企業、市民社会創造ファンドの個々人が「市民社会の一員」である。またNPOと企業が理解し合えるよう、対話しながら共通言語を紡ぐことも大切である。その共通言語が持続性を促す要因の一つにもなっているのではないかとコメントした。

#### **総括コメント：市民社会の一員として社会を考えることが組織基盤強化につながる**

最後に、子ども分野で選考委員長を経験された森本真也子さん(特定非営利活動法人 子供と文化全国フォーラム)から総括のコメントを頂いた。

組織基盤強化は、どのような組織や社会をつくりたいのか、そして社会で何をやりたいのか、そもそも明確になっていることが重要である。しかし熱い想いだけではなく客観的に組織を整理する力も必要である。そして誰もが市民社会の一員としてフラットになり、自分たちの町や国をどう作っていくのかを語り合える土壌を生み出すことが組織基盤強化にもつながるのだろう。

また坂本さんや東郷さんに対して、NPOを助け続ける牽引者であり続けて欲しい、というエールとともに締めくくった。